

教科「情報」の現状

富山県教育委員会 県立学校課
指導主事 片山 喜美

「知識基盤社会」といわれる今日、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域における活動の基盤として飛躍的に重要性を増しています。社会の情報化が急速に進展し、ICTを活用して誰でも膨大な情報を収集することが可能となるとともに、様々な情報の編集や表現、発信などが容易にできるようになりました。子どもたちも、調べ学習やプレゼンテーション、シミュレーションなどに情報通信技術を大いに利用することで、豊かな学習活動を実現しています。

その一方で、情報化の影の部分が子どもたちに大きな影響を与えており、インターネット上の「掲示板」への書き込みによる誹謗中傷やいじめ、個人情報の流出やプライバシーの侵害、インターネット犯罪や有害情報、ウイルス被害など、様々な問題が起きています。そのため、教科「情報」の授業においても、情報モラルに重点を置いた指導を行うことが求められています。また、生徒指導の面で大きな課題となっており、県教育委員会では今年度、「インターネット・トラブル対応マニュアル」を作成して、県下の学校に配付し、トラブルに対応する具体的な対応手順を示しております。

現在、文部科学省では学習指導要領の改訂作業が進められており、高等学校の学習指導要領の改訂案は来年度中に発表される予定です。教科「情報」においては、情報活用の実践力の確実な定着や情報に関する倫理的態度と安全に配慮する態度や規範意識の育成を特に重視した上で、生徒の能力や適性、興味・関心、進路希望等の実態に応じて、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方について、より広く、深く学ぶことを可能とするため、現行の「情報A」、「情報B」、「情報C」の3科目に替え、「社会と情報」、「情報の科学」の2科目が設けられます。「社会と情報」では、情報化の進む社会に積極的に参画することができる能力・態度を育てることに重点が置かれ、「情報の科学」では、社会の情報化の進展に主体的に寄与することができる能力・態度を育てることに重点が置かれることとなります。

教科「情報」は、その特性から授業で取り扱う内容が、情報通信技術の様々な進歩や状況の著しい変化から影響を受けることを避けられません。従って、教科書に加え、生きた教材として最新のニュースを授業に活用していくことや、日々進歩を続ける情報通信機器の活用について、必要な知識や技術を身に付けていくことなどが求められます。そのため、教える側も時代の変化に常に敏感であることが重要となります。

さて、平成16年度の高教研情報部会発足から昨年度まで総合教育センターで担当してきた情報部会の事務局が、今年度より、南砺総合高校福野高校へ移りました。事務局には多くの業務を担っていただき、そのおかげで、部会の運営や研究大会の開催、研究紀要のとりまとめなどが円滑に行われております。今後も、高教研情報部会が教科「情報」を担当する先生方の色々な取り組みを支援し、実践研究の発表や活発な協議の場を提供することにより、本県の情報教育のさらなる発展に大きな役割を果たされることを期待いたします。